

における資金繰りの命綱、無利子融資制度など、制度融資をいっそう拡充することについて、伺いたい。

答

本市では、新たな雇用創出を図るため、新規事業として観光案内業務委託の制度の活用を検討しているところである。また、制度融資において、市税要件を緩和した無利子融資制度の創設については、金融機関への預託金をはじめ、完済者に対する信用保証料補助や利子補給に係る費用、代位弁済が発生した際の損失補償金の市負担分の支出等、制度融資の資金は税金が原資となっており、等を勘案すると、困難である。(商業観光課)

公害行政の強化について

高橋 初 議員

問

①上須戸地内の合成樹脂再生工場から発生する騒音などにより近隣住民は十年以上苦しんでいるが、法律違反に対し、市はどのような対応をするのか②廃食用油の回収促進のために収集場所を

増やせないか、それぞれ伺いたい。

答

①合成樹脂再生工場については、粉碎機等の騒音に対する苦情が平成十一年度から継続しているが、この間、騒音測定を十三回、文書指導を五回、更に行政の仲介による当事者間の話し合いも実施してきた。今後も作業方法の改善や新たな防音対策の計画的な実施等について、粘り強く指導していく。②廃食用油の回収については、市報ホームページ等において、廃食用油をリサイクル活動推進奨励金の対象品目に加えた旨周知を図るほか、リサイクル活動団体に直接働きかけるなどしている。今後も団体による回収の輪が広がるよう努めていく。(環境政策課)

水道事業について

新井 昭 安 議員

問

本市総合振興計画の水道事業の施策である安水でおいしい水を安定供給するため水道事業の施策につ

いて、また、県水の購入単価および給水原価、供給単価並びに石綿セメント管更新の完了年度について、伺いたい。



水道庁舎

答

本市の水道は、合併前の事業を引き継ぎ、熊谷大里、妻沼、江南の各水道事業として運営している。これらの四水道事業を本年四月の統合に向け、目指すべき将来像をまとめた「水道ビジョン」と具体的施策となる「水道事業基本計画」を策定し、厚生労働大臣に認可申請をしたところである。また、県水の購入単価は、現在、一立方メートル当たり六十一円七十八銭である。平成十九年度決算における給水原価は百四十七円四十六銭、供給単価は百五十五円三十一銭である。石綿セ

メント管更新については、引き続き国庫補助を受け、平成二十三年度の完了を目標に計画的に推進しているところである。(営業課)

熊谷市の観光事業について

笠原 秀 雄 議員

問

①うちわ祭への本市職員との係わり②祭り執行者や警察からの要望③警備員に代わり、職員を動員した場合の時間外手当等は④他市の状況はどうか⑤本市の取組体制をどう考えるか⑥うちわ祭の将来についてどう考えるか、それぞれ伺いたい。

答

①開催前の広報活動や期間中の違法駐車対策など、約百人体制で取り組んでいる。②違法駐車対策に係る要望があった。③祭りの開催日が週休日の場合、振替による対応とし、通常の勤務時間を超える場合は、時間外勤務扱いとしている。④「川越まつり」約百九十人、「秩父夜祭」約百人、「行田浮き城まつり」約百人、「熊谷市街地の八つの町区が輪番により大総代を選出し、祭り

の全てを統括・運営する、自主・自立性の強い祭りであることから、財政的支援を中心としたものだったが、市民および観光客の安全の確保等から、パーク&ライド事業を検討している。⑥うちわ祭の発展のため、執行者側の意向を踏まえて対応していきたい。(商業観光課)

不況対策にもつながる市営住宅の修繕・募集について

大山 美智子 議員

問

空き室の修繕をすすめることは、市内業者の仕事が増え不況対策にもつながると考えるが、①修繕の計画は②募集戸数をふやすことについて、どのように考えているか、それぞれ伺いたい。

答

①毎年度、四十戸程度の修繕を見込み、申し込みの多い住宅から計画的に実施している。②申し込みの状況等を勘案しながら、空き室を有効に活用して、必要な募集戸数を確保していく必要があると考えている。今年度から、募集後、抽選までの間に空き室が生じた場合には、募集戸数に追加するとともに、